

各報道機関 様

令和2年3月19日配信

業務効率化に向けた DX 技術導入の共同実証が完了しました。

嬉野市と株式会社佐賀電算センターは、自治体の業務効率化に向けた DX（デジタルトランスフォーメーション）技術導入の共同実証を行い完了しました。本成果を活かし、DX 技術のうち RPA と AI-OCR を利用して定型業務を自動化し業務量を削減することで、働き方改革を進め、市民サービスの充実につなげていきます。

○実証事業の内容とスケジュール

嬉野市 市民福祉部及び行政経営部の業務を主な実証範囲として、RPA 及び AI-OCR の導入実証を行いました。

- ・ 2019年11月 実証範囲及び目標の決定
- ・ 2019年12月 業務の整理（対象業務の選定）
- ・ 2020年1月 トライアル実施
- ・ 2020年2月 評価・検証、効果測定

○実施結果

＜実証事業＞

- ① 放課後児童クラブ 新年度入所受付・入所決定・通知
- ② 児童手当現況届更新
- ③ 時間外勤務情報入力
- ④ 非常勤職員勤務状況入力
- ⑤ 交通災害共済申込受付

成果としては、対象 5 業務全体で年間業務量が 1,241 時間→1,016 時間に短縮

年間 225 時間の業務量削減（18%）

	年間業務量	年間削減量	BPR の内容	DX 適用・IT ツール改善
①	363 時間 (610 件)	74 時間 (20%)	申請書フォーマットの統合 台帳作成方法の見直し	AI-OCR・RPA Excel 関数・マクロ改善
②	257 時間 (1,600 件)	71 時間 (28%)	申請内容の確認作業の見直し	RPA
③	120 時間 (1,400 件)	12 時間 (10%)	Excel のフォーマット変更による既存データ活用	RPA IT システム更改
④	74 時間 (1,830 件)	14 時間 (19%)	業務フローにおける確認作業の見直し	RPA IT システム更改
⑤	427 時間 (3,300 件)	54 時間 (13%)	台帳作成作業及び確認作業の簡素化	AI-OCR・RPA

○効果のまとめと課題

【効果のまとめ】

当初の目標を上回る成果を出せ、短期間において適切な検証ができた。

DX 技術を導入することで、BPR（業務改革）が進み簡素化が行えた結果、市民の負荷も減少する（市民サービスが向上する）という相互作用をあらためて確認できた。

【課題】

ソフトウェアの操作方法については慣れが必要であり、本格導入では人材育成が重要である。BPR を進めるうえで、属人的にならないようチームとしての活動が必要である。

※ デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、データとデジタル技術を活用して製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務・組織・プロセスを変革し、競争上の優位性を確立することです。

※ RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは、パソコン上で行う定型的な作業を自動化し、業務量を削減するツールです。

※ OCR（オプティカル・キャラクター・レコグニション）とは、手書きや印刷された文字をスキャナにより読み取りデジタルデータ化する技術です。

<お問い合わせ>

嬉野市役所 子育て未来課 石垣 TEL 0954-66-9121

嬉野市役所 広報・広聴課 白川 TEL 0954-66-9115